

屏風岩で落石! 一人負傷

岩稜会員、岩壁下降を中止

【北ア横尾発】朝日新聞連載小説「氷壁」執筆の動機になったといわれる鈴鹿市神戸新町岩稜会代表伊藤経男氏は二十九、三十日の二日間の予定で、いままでたれも降りたことのない北アルプス屏

風岩正面岩壁の下降を試みるため廿九日午前八時半、横尾の基地を出発したが、同日午後二時ごろ正面岩壁の中腹八高テラス付近の岩場をトラバース中に落石があり、サポート隊の大飯野堀市出船町、

添アパート内田中浩さん(三三)が頭に重傷を負ったので計画を中止、負傷者を取寄せながら三十日午前二時横尾基地へ引返した。この正面岩壁は高さ約七百尺と平均斜度七十度でほとんど垂直

に近い。さる二十二年七月同会の石岡繁雄氏ら三人によって登はんが成功、その後たれも登つたものも降りたものもない。今年登はん成功して満十年目、今度の下降は、これを記念して計画されたものである。なお伊藤、石岡両氏ならびに下降隊長石原一郎氏は「負傷者をすておくわけにはゆかないので残念ながら計画を中止した。必ず近く決行するつもりだ」と語った。